

目次

青野 敏議員—行政評価・事業評価について	1
青野議員	1
町長	2

青野 敏議員—行政評価・事業評価について

青野議員

4番、青野。

それでは、私から行政評価及び事業評価について、町長にお伺いをさせていただきます。

近年、多くの自治体が様々な形で行政評価制度を取り入れております。

その背景には行財政運営の効率化、客観的な情報やデータに基づく政策判断、説明責任の確保、住民サービスの向上、行政運営全般の見直しなど、多くの役割が期待をされているところであります。

さらに事務事業評価については、行政コストの削減、職員の意識改革、事業成果を図りつつ行政サービスの向上と確立など、行政改革を進めていく上でもその重要性が認知をされ導入が進んでおります。

また、昨年策定された鷹栖町まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、戦略の進み具合や内容を確認するためにも「PDCAサイクル」が重要視されているところでもございます。

改めて行政評価・事業評価制度の本質は、行政機関の活動を決められた視点と手法により評価し、その評価結果をいかに行政運営に反映をさせ、どの様に生かすかが重要であります。

更には分権型社会に対応し、地方が自立を目指していくためにも、その地域最適状態の確立に向けて、選択とその結果に責任を持つ体制づくりが必要であり、その過程では町民の参画と協働を求めることにより、新しい行政運営を確立することにも有益であると考えられます。

そのことから2点質問させていただきます。

1点目として、行政評価・事業評価の実施方法には一定のルールはありませんし、進める上での評価体制や評価指標などについて課題はありますが、事業の進捗状況や達成度を把握して評価を行い、その評価結果に基づいて改善策を検討し、次年度以降の事業計画などに反映をするためにも、必要な制度と考えますけれども町長のお考えをお伺いいたします。

2点目として、事務事業評価システムが機能すれば、議会の予算審査や決算審査などの審議時の活用と共に、町の事務事業について町民にもわかりやすい形で客観的な指標を用いて説明を行い、その内容と評価結果を公表することにより行政の透明性の向上が図られ、町民への説明責任を果たすことができるのではないかと考えますが、事業評価の公表について町長のお考えをお伺いいたします。

答弁、谷町長。

町長

それでは、青野議員のご質問にお答えいたします。

議員のご指摘のとおり、事業を行う上でこれまでの事業の検証・評価を行い、それを踏まえて次の事業展開を企画し実施することは、評価書という文書を作ろうが作らないに関わらず、行政運営をする上では基本的な姿勢であり重要なことと認識しております。

総合計画については、毎年度個別の事業シートにより計画との整合性や事業内容の点検を行い、随時見直しを行っております。

また今年度からは、次年度に向けた予算編成に向けて各事業別に詳細のヒアリングをすでに5月には行っており、総合計画に掲げた基本的な考え方に照らし合わせながら、課題と解決に向けた取組み方針や事業計画などの点検を強化し、予算編成に反映できるよう進めております。

事業評価の公表については、鷹栖町という人口 7,000 人規模の町で考えますと、評価書の公表という一方的な形ではなく、町民の方との話し合いを通じて考え、私の公約であります春と秋の年2回の地区別のまちづくり懇談会を開催し、町民の皆さんからの要望に対しての予算の反映状況や取組み状況、また各事業の実施状況を説明し、さらに次年度の予算編成に向けた要望を直接聞き取ることができるように取組みを進めております。

また、秋には地区別ではなく様々な団体も対象にまちづくり懇談会を実施しており、小人数での開催も含めて開催数が増加して皆さんと政策や事業について議論できる機会が増えております。

今後も皆さんとの話し合いの中でご意見をいただきながら、事業を進めていきたいと考えており、町民の皆さんにわかりやすく理解できるような手法も十分検討しながら考えてまいります。

質問ございますか。

4番、青野君。

4番、青野。

まず 1 点目の行政評価、事業評価を取り入れるかどうかの点でございますが、町長から予算編成を含めて細々とそれぞれの課・担当も含めながら、評価を行っているというお話をいただきました。

評価検証した結果どういう効果があり、その効果を持ち得ながら次年度以降の事業、さらには政策的なものに対してどのような取組を行うのかということが 1 番重要だと思いますが、毎年行っているローリング的な予算編成の中で、一定のルールの基で目標指標を用いた評価システムを活用して行うことが必要だと思いますけどもどうでしょうか。

答弁、谷町長。

青野議員のおっしゃるとおり事業別の評価及び点検・検証した結果をどの様に町民に戻していくか、町の事業を遂行していくかというような話しをするのは大変大事なことでございます。

ただ、先ほどの答弁でも申し上げましたように指標を作るといような大きな都道府県や札幌市などではそういう手法を用いているようですが、そういうような事務作業を行うよりも、私も含めて町職員が町民の皆様に対して進捗状況を対話ではなく会話をしながら進めたいと考えています。

また、先ほど協働のまちづくりというお話もしましたが、この部分を協力してほしいとか、具体的な町民の要望として足りない部分を双方で考えながら、事業の効果を上げていくような手法がこの人口 7,000 人規模の町で今までもやってきてございます。

今後も協働の部分を強化して、町民と共に歩めるようなまちづくりを進めたいと考えておりますので、指標ですとか数値など事務的には持つ部分もありますが、今迄の手法でこれからも進めていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

4 番、青野君。

4 番、青野。

指標を持ち得ないまでも、対話を重要視して地域それぞれの団体との懇談会も通じながら進めたいとの考えには一定の理解をしております。

ただし、町長もご存じのとおり政策的なものについての大きな目標、長期計画等については 10 年間のビジョンを策定して目標達成に向けの事業をしなければなりません。

総合戦略の中に人口ビジョンというのがございます、これはまさしく対話も重要でしょうけれども、行政として年度の中での方向性や数字を示し、その指標に基づいて事業を行い、結果に基づき検証する事が必要であります。

政策は、目指すべき方向や目的を示すものであり、施策は、政策目標を達成するための方策であり、事務事業は、施策目標を達成するための具体的手段であります。

具体的には、鷹栖地区住民センター建設問題等々の話がありますが、これはやはり将来を見据えた行政の目標を示した計画でありますから、この政策目標はしっかりしているわけですから、そこで施策や事務事業のとき議論の時にまた目標に戻るのではなく、しっかりした目標を達成するための議論が成り立っていくのではないかと考えます。

そのためにも是非目標指数を策定して、そこに到達するための色んな議論をするというのは大事だと思いますけれども、町長の考え方はどうでしょうか。

答弁、谷町長。

青野議員のおっしゃる指標等のお話しですけども、それについては政策ヒアリングの中で行ってございますので、十分重要的なものだと理解してございます。

4 番、青野君。

4 番、青野。

十分重要だと理解しているとの事ですから、全部が全部その指標を出せということではないまでも、目標を達成するためにも必要な事だと思いますので、よろしく取組んで頂きます様にお願いしたいと思います。

また、行政評価の手法には、職員や担当課などの内部評価と外部の方々を入れて意見を聞く外部評価の方法がありますが、やはり内部は内部の議論がありますし、外部というのは先ほど町長がおっしゃった地域の懇談会で出された町民の方々のご意見、これもまさしく外部評価だと思います。

更に、我々議員も色んな方々と話したことを行政に対して数値的な目標に関して話すのも外部だと思います。

私は外部評価が最適ですとか、内部評価が駄目ですとかの言い方はしませんが、内部、外部の手法は鷹栖町行政に合った評価システムが必要だと思いますけれども、その辺の考え方はどうでしょうか。

答弁、谷町長。

評価の関係でございますけども、青野議員もお話しのあったように議会の中は予算特別委員会ですとか9月には決算委員会がございます。

その中で事業を詳細に説明しながら、議員の皆様からもその事業の成果・効果、そして今後の方策等もお話があり、より議論を深めながら町民のためになるような事業にしていこうというような努力を今もさせてもらっています。

まちづくり懇談会も地区の他に団体とのまちづくり懇談会も随分させてもらっており、平成 27 年 1 年間で 22 回まちづくり懇談会を行い、延べで 400 人を超える方に来ていただいて、地域の環境整備ですとかなど色々な声をいただいております。

そういうものを通して評価という部分もありますけれども、また個別の課題や町全体としての課題というのもありますので、行政からは説明責任として要望の順位ですとかしっかり説明をさせてもらい、事業を遂行している状況でございます。

現在のまちづくりに大きく支障を来している様なところは私としては感じておりませんので、これをより充実させたものにしていきたいというふうに考えてございます。

4 番、青野君。

4 番、青野。

町長が地域へ出向いて地域の懇談会や町民の方々、また団体の方々と話をすることは本当に大事なことです。これから多くの方々が参加していただけるような方策も取り入れていただきたいと思います。

我々議会も行っている「地域を語ろう会」では、それぞれ地域・団体と開催して町長がおっしゃったことと同じであります。我々もより一層取組について力を入れて頑張っていきたいと思っております。

最初の話に戻りますが、評価についての一定の書式は作るべきだと私は思います。

それぞれの町に合った作り方で結構だと思います。行政だけではなく我々議会、町民の方々にもお示しができるような、基本様式は行政の方にあるのでしょうか？ないのでしょうか？

答弁、谷町長。

政策ヒアリングの中では、その様式的なものを作っております。

4 番、青野君。

4 番、青野。

一定の書式が有るのであれば、議会や町民へ説明をする時の為にも公表をするということが大事だと考えます。

出来れば予算ヒアリング、政策ヒアリング等々の中でそういう書式があるのであれば、ぜひ議会にもお示しをいただき、それに基づいて目的ですとか目標を達成するためにどういう手法を使うのか、どういう事業を行うのか、またそこで改めて検証もでき様々な議論もできるのではないでしょうか。

公表についての考え方はどうでしょうか。

答弁、谷町長。

公表についてはこれから検討させていただいて、それが町民の方々により良く還元できるかについて、私たちも努力すべき事項だと思います。

4 番、青野君。

4 番、青野。

町長から公表についても前向きな考え方をいただいたと思っております。

やはり町民の方々と一緒にまちづくりを進めるということが 1 番であり、町長も 4 年間首長として取組んで先ほど話したように、「まちづくり懇談会」も含めて地域の方々のご意見を聞くということは大事なことであります。

そういう意味では先ほどから話しているように、公表という形で町民の方々にもそこに参画をしてもらう、情報共有により議論をしていただいたり、行政の指標を見ていただいたりすることで議論する事がやはり大事だと思いますがどうでしょうか。

答弁、谷町長。

公表の話ですが、全てのものをとおっしゃっているのがちょっと私には理解できない部分があります。

まちづくりに対しての大きな事項というのは、鷹栖地区住民センターのお話しですとかパレットヒルズのお話しですとかそういうものについては、今までも住民への説明会ですとか色々な場面を通じて、今後の財政的な面もありますので、どのような規模がいいのかという部分も含めて機会を設けさせてもらっています。

今後もしょういような大きな予算がかかるような事業、または長い時間をかけて行うような事業や町民の人たちと協働してまちづくりを進めてかななくてはならないような事業については必要だというふうに思っております。

事業別に全てを公表するという部分ことは事務量的に非常に多くなり、正直申し上げまして今の職員数では難しい部分もあります。

専門的にやって行かなくてはならない部分や、町の課題として解決すべき事項をより推進するためにも、職員の能力を発揮してほしいというふうに考えております。

そういう検証することも大事ですが全てを公表すると事は、正直お約束はできない状況ではございます。

取捨選択しながらこれは町民の方々には公表して皆さんに協力していただいたり、一定の理解をもらいながら進めていかなくてはならない事業に関しては、必要だというふうに感じておりますので、その辺は検討していきたいと考えております。

4 番、青野君。

4 番、青野。

私も事務事業全部を公表するべきとの考え方はありません。

ただ、先ほど話したように大きな事業、具体的には鷹栖地区住民センターの建設ですとか、北野サービス付き高齢者住宅の問題ですとか、色んな大きな問題に関してどういう目的でこの計画を行うのか、その目的を達成するためどういう手法を用いて行うのか、またそれを具体的にどういう事業として進めるかというのは、それぞれの段階で説明されておりますが、評価システムがあればより具体的に説明ができるというふうに思いますので、そのことについて私は話をしております。

これは行政だけの事ではではなく議会も同じだと思います。

議論をする以上は、行政から提案されたものをどういう目的で行うのかについて、しっかりと政策目的について議論をしたうえで議決をする。

その事業を行う手段はどの様な方策でどういう手法で行うのか、更には事業実施の段階になってまた目的に戻ってそんなものが必要なのか必要でないのかとの議論など、この事がしっかりと説明できていないから、最初の議論に戻ってしまうのではないかと考えています。

行政評価、事業評価更について、今後鷹栖町が行政を運営していく上では重要な事だと思いますので評価システムについての取り組みと、さらには取組んだことに対する公表、そして公表したものをいかに行政と町民とで情報を共有しながら、まちづくりを進めるかということが大事だと思いますけども、最後に町長に総合的なお考えをお伺致します。

答弁、谷町長。

1 番最初の答弁にもあったように、それは努力しなければならないものだというふうに思っております。

議員の皆様にも足りないと思われた時は行政に言って頂き、私たちもそれに対して町民の方たちにしっかり説明をしなくてはならないというふうに思いますので、議員の皆様からお声がけをいただければすぐやっていきたいとも思います。

私たちも気持ちを新たにして、事業を行うときの目的・目標というのは非常に大事なことで、思っていますが、そういう部分が明確化されてないというような事業も今ご指摘の中には、多分そういう含みがあるのかなというふうにも感じてございます。

そういう部分をしっかり私たちも認識して事業を進め、その後に検証・評価も行いながら皆様にお示しをしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

以上をもって、青野敏君の一般質問を終わります。

お諮りいたします。